

長野県のシダ植物雑記 (1)

大塚 孝一

K. Otsuka : Miscellaneous notes on Pteridophytes in Nagano Prefecture (1)

長野県のシダフロラは、杉本 (1966), 横内 (1971, 1983), 大塚 (1982) 等により一応のまとめがなされているが、その後も多くの新産地が発見されていて、今後の調査が期待される。

ここでは、それら新産地の報告や先に報告されたシダについての再検討等を含め知見を述べていくことにしたい。

1. オニヒカゲワラビ

Diplazium nipponicum Tagawa

本種は本州、四国、九州に広く分布する大型の暖帯性シダである。本県では小谷村平岩が唯一の産地として知られているが (高橋ほか1969), これも一度記録されたのみで、その後論じられていない。

今回、飯山市小菅の杉林下で数株自生するのを見いだした。付近にはオオヒメワラビ、ゲジゲジシダ、ヤワラシダ、オオクジャクシダ、アイアスカイノデ、オオサトメシダ、ナガボノナツノハナワラビ等が見られた。

〔採集記録〕 飯山市小菅 (大塚10965, 1983. 10. 30. SHIN)。



写真1. オニヒカゲワラビ

2. ダンドシダ

Diplazium × *toriianum* Kurata

本種は1953年に三河の段戸山で故田川基二先生が最初に注意されたもので、その後、故倉田悟先生の研究によりキョタキシダとウスバミヤマノコギリシダ (ミヤマノコギリシダ) との雑種であると認識された (倉田1960)。両種の中間的な形質をそなえ、胞子は不熟で、葉が薄い。本州、四国、九州の両種の混生する地域に稀に産する。

今回、木曽阿寺溪谷で本シダを採集した。ウスバミヤマノコギリシダとキョタキシダが群生する中で2株見られた。付近にはヒロハトウゲシバ、コバノイシカグマ、ウスヒメワラビ、オオクジャクシダ、オシダ、ハリガネワラビ等が見られた。当地のダンドシダはタイプ標本に比べるとかなり裂片が広いが、胞子は不熟である。

ウスバミヤマノコギリシダはミヤマノコギリシダの変種で、本県には木曽阿寺溪谷のみから知られている。本県産を最初に報告したのは千村速男氏で、同溪谷の左岸であると報じている (千村, 1972)。今回の場所はこの溪谷の右岸であるから先の場所とは異なると思われる。また、裏木曽と呼ばれる岐阜県恵那郡川上村の国有林でもその産が知られているので、木曽の他の地域でもウスバミヤマノコギリシダが産する可能性が高い。

〔採集記録〕

○ダンドシダ; 木曽郡大桑村阿寺溪谷 (大塚 11091, 1983. 11. 6. SHIN)。

○ウスバミヤマノコギリシダ; 阿寺溪谷 (千村, 1971. 8. 3, SHIN. TOFO), 同 (大塚10157, 1982. 11. 21, SHIN)。

3. ハコネオオクジャク

Dryopteris × *hakonecola* Kurata

本シダは1956年、故行方沼東氏により初めて、箱根道了山で採集されたもので、オオクジャクシダとオクマワラビの雑種である。前種に比べ羽片の数が少なく、巾広く、切込みが深い。また、後者に比べ、切込みが浅く、葉の表面において葉脈のへこみが顕著である。

本州 (東北～近畿)、九州から発見されているが、

これまで本県からは知られていなかった。今回南木曾町から採集された。オクマワラビは全県に広く分布しているが、オオクジャクシダは少なく、木曾、下伊那、北安曇、下高井、下水内から知られている。この中で木曾南部では割合多い。

〔採集記録〕 木曾郡南木曾町大妻籠（大塚11108，1983. 11. 6. SHIN）。

4. オオハナワラビ

Sceptridium japonicum (Prantl) Lyon

本種は本州、四国、九州に広く分布するが、暖帯を中心に産し、本県にはあまり知られていない。本県における産地について最近の文献を見ると、「長野県植物総目録」には記録されておらず、「長野県の植物」には下伊那南部があり、また「信濃植物誌」には下伊那南部の他に小県と南安曇がある。「下伊那の植物」（1973）にはいくつかの産地が記録されている。

筆者はこれまで下伊那南信濃村で採集したのみであるが、信大標本庫（SHIN）には奥原先生が採集した木曾の標本がある。今回、野沢温泉村東大滝で採集した。付近にはイワガネソウ、クラマゴケ、ヒロハトウゲシバ、ヌリワラビ、オオヒメワラビ、ヤワラシダ等の暖帯性シダがあり、千曲川下流域に

おける暖帯性シダの分布が注目される。

ところで、オオハナワラビ、フユノハナワラビ、エゾフユノハナワラビは互によく似ていて混同されて認識されていることが多い。県の中中部や海拔の高い地域で報告されたオオハナワラビは再検討の要がある。

〔採集記録〕 野沢温泉村東大滝（大塚11050，1983. 11. 3. SHIN）。木曾山口村黍生（奥原弘人，1976. 9. 23. SHIN）。

参 考 文 献

- 千村速男，1972，長野県木曾谷における暖帯系のシダ，日本シダの会々報2(9)：8-9
倉田悟，1960，シダ類ノート(20)，北陸の植物，8(2-4)：80-86
大塚孝一，1982，長野県産羊歯植物目録，長野県植物研究会誌15：12-18.
杉本順一，1966，長野県植物総目録，長野林友高橋秀男・中村武久・平林国男，1969，白馬・後立山連峰とその東方山麓のフロラ，神奈川博研報1(3)：1-83
横内斎，1971，長野県の植物，信教出版
——，1983，信濃植物誌，信濃植物誌刊行会

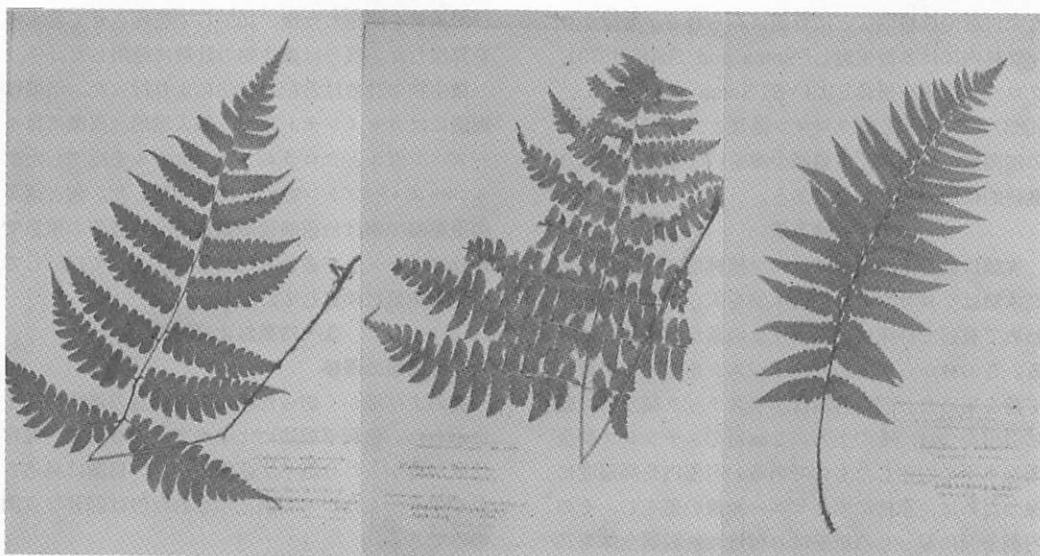


写真2. ウスバミヤマノコギリシダ

写真3. ダンドシダ

写真4. ハコネオオクジャク

〔植物ニュース〕74. フキ *Petasites japonicus* (Sieb. et Zucc.) Maxim.

フキの性表現は複雑であることが知られている。つまり、不稔性の両性花のみから成る頭花をもつ株と、稔性のある多数の雌花と不稔性の少数の両性花

から成る頭花をもつ株がある。後者の場合、両性花は頭花の中心に1,2個、株によっては10個ほどある。キク科には、雌性同株や雌性異株の種は多いが、フキの場合はさらに複雑で、私は、雌性異株の変型とみなしている。(清水建美)